

美作市議会 議場

美作市議会議員

なかにし りゅうた

中西 竜太

みんなで前進

「新しいみまさか」



〒707-0045 岡山県美作市巨勢 992-7

TEL : 0868-75-4755 E-mail : ryu.nakanishi@gmail.com

HP : <https://www.mimasaka.life>

中西 竜太



討議資料

明るく開かれた美作市議会を目指して

美作市議会の議場は、美作産の木材がふんだんに使われた、広く明るい空間です。木のぬくもりを感じながら、市の未来を話し合う場として、市民の皆さんにも身近に感じていただける場所にしていきたいと考えています。

全員が所属する「議会改革特別委員会」では、私の方からは、議会でも積極的にITなどの新しい技術を取り入れ、より開かれた議会をめざす提案を行い、今回からは議場のディスプレイの活用と、電子採決の導入も始まりました。これにより、議論の内容がより見えるかたちで市民の皆さんに伝わりやすくなったと感じています。

美作市議会は、どなたでも気軽に傍聴していただけます。実際の議場の雰囲気や議論の様子を一度ご覧いただければ、より身近に感じていただけるはずです。ぜひお気軽に足をお運びください。

令和7年9月定例議会 本会議 一般質問と執行部の答弁

01 郵便物のデジタル配信化による効率化について

最近では企業でも郵便物の電子化が進み、紙を使わずにコスト削減や効率化を実現しています。自治体でも郵送費や職員の作業負担が課題となっており、スマートフォンやパソコンで通知を受け取りたいという市民の声も増えています。マイナンバーカードと連携した仕組みも整いつつある中で、本市として郵便物の電子化を進められないか質問しました。

【質問】

郵便物にかかる費用や職員の負担の現状と、電子通知を導入する他自治体の事例について

【執行部からの答弁】

市から発送する郵便物には、令和6年度で約3,260万円を支出しており、郵便料金の値上げにより令和7年度は約750万円の負担増が見込まれるなど、財政的な負担は大きくなっている。職員も印刷や封入、仕分け作業に多くの時間を割いており、効率化策としてSMS通知や封入封緘機の導入を検討中。郵便の電子化については、法令上書面が必要な通知も多く、二重業務の発生など課題もあるが、他自治体においては、子育て世代向け通知で年間約300万円の削減効果をあげた事例もあり、美作市としては、マイナンバーカードの交付率が9割を超えており、全国的にも高い水準にあることから、市民にとって利用しやすい環境が整っているという強みを活かし、費用対効果を踏まえて電子化の可能性を検証していく方針。



02 消防団員活動支援のための夏用Tシャツの支給及び補助等について

消防団員は地域の防災力を支える大切な存在ですが、夏季の活動においては課題があります。現在、美作市消防団では夏用の服装がなく、猛暑の中でも厚手の制服を着用しなければならず、訓練や行事の際には熱中症の危険も懸念されています。特に、毎年7月に猛暑の中で開催される岡山県操法訓練大会では、団員への負担が大きく、近隣市町村では操法大会の応援や普段の集まりでも着用できる夏用Tシャツを支給している例もあります。美作市消防団においても、団員の熱中症対策や士気向上につながるように、夏用Tシャツの支給や補助を検討できないか質問しました。なお、今回の一般質問では議会改革により導入された議場ディスプレイを活用し、実際に以下の4枚の写真を投影して現場の状況を示しながら提案を行いました。



岡山県操法大会 会場



応援時の様子



Tシャツ着用例(他市の消防団)



美作市消防団の厚手制服

【質問】 夏季の消防団活動行事と、現在の制服類の支給状況・Tシャツ支給が検討できないか？

【執行部からの答弁】

消防団の夏季活動では操法大会や規律訓練が行われ、団員には活動服や法被が貸与されているが、安全面から薄着での活動は認められていないため、現在は夏用Tシャツの支給は行っていない。地域団員からの意見や要望があれば、団本部会議で協議し、必要に応じて検討を進めていく。

03 県立林野高校の存続と魅力化に向けた動きについて

美作市にとって、唯一の県立高校である林野高校の存続は大きな課題です。高校がなくなれば進学に伴う若者の流出が加速し、子育て世代の定住意欲も下がり、地域全体の活力低下につながりかねません。市もその深刻さを認識しており、現在、林野高校の存続と魅力化に向けて「コンソーシアム(地域と高校の協働体)」の設立が検討されています。この質問は6月の議会でも私から質問しましたが、その際には、本年秋ごろには組織や活動の概要が示され、国の交付金活用の可能性についても答弁がありました。そこで、今議会においても取り組みの進捗と今後の見通しについて質問し、今回は市長にも答弁を求めました。

【質問】 コンソーシアム(協働体)設立に向けた動きと連携、国の交付金の活用の検討について

【執行部からの答弁】

林野高校の存続と魅力化は、美作市の将来に直結する重要な課題で、現在、その取り組みを支える新たな組織として「コンソーシアム」の設立が進められており、地域や同窓会、そして校長先生を中心に組織される予定。国の交付金の活用について、第2世代交付金の活用は可能性があるが、対象は地域創生に資する事業であり、高校を核とした地域創生機能の構築が必要となる。

市長答弁：学校運営については校長の広い権限が尊重されるべきであり、市やコンソーシアムは資金やノウハウ面で伴走しながら支援していく。



県立林野高等学校

その他の主な活動・取り組みについて

市議会議員として、日々の活動の合間に勉強にも力を入れています。7月には新人議員研修で東京へ行き、地方自治法や財政、インフラ整備など、議員活動に必要な基礎を2日間かけてしっかり学びました。8月には岡山県市議会議員研修会に参加し、「人口減少社会における新たな地域の可能性」という講演を聴き、地域ごとに工夫した取り組みを進める大切さを強く感じました。研修を受講して感じたことは、国と地方は「上下関係」ではなく「協力関係」へと移りつつあり、各地域で住民の声を活かした政策づくりが求められています。そのためには地域の皆さんの声をしっかりと聞きし、議員として地方自治法や財政などの知識を深めていくことが大切だと感じています。



最後までお読みいただき、ありがとうございました。10月からは決算特別委員会が始まります。また、美作市のマスタープラン計画を検討していくために、議員全員に対しての勉強会の開催を、市長・議長に提案しています。皆さまからのご意見やご提案があれば、どうぞお気軽にお声かけください。今後ともよろしくお願いいたします。